活動報告

『ほんきでやろう！お店やさん～子ども実行委員会』

●期　間　　平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
●会　場　　主にセシオン杉並会議室にて（他には和田集会室などを使用）
●担　当　　お店やさん参加希望者
小松崎（ゆるゆる ma～ma）、川上（らくげん）、
渡辺（高円寺『ハート・トゥ・アート』）、
原田（センター協議会会長　※10 月以降原田会長から伊藤会長へ）、
渡邊（杉並区地域課）、諸角（高円寺地域区民センター協議会事務局長）
※宇田津講師、岡野・羽田・蟻川（センター協議会コミュニティ推進部）、
保護者ほか

＜目的＞
子どもの社会教育と地域の活力向上をめざした企画「ほんきでやろう！お店やさん」は、子どもたちが仕入れから販売まで行い、売上の使い方まで考えてもらう内容。イベント内での出店を時間をかけながら行い、地域での協力者の輪を広げながら地域の支え合う心を育成していくのが狙い。

＜内容＞
■開催日
基本は毎月の最後の週の水曜日の15～17時に開催。イベント直前には月1回の集まり会では時間が足らず、臨時集まり会を行った（土日の午後中心）。平成24年度は定例の集まり会、臨時集会、グループ個別の活動のフォローを合わせると、最後の報告会までに25回の集まり会が行われた。

■内容
・グループ分け、お店やさん内容決め、仕入れ方法、看板作り、宣伝チラシ作り、
お店の役割分担、仕入れ、事前の試作挑戦、イベント終了後の収支計算など
・宇田津講師による講義
・出店回数（全5回；はじっこまつり3回、子どもフェア、
大人と子どもで創る地域コミュニティフェスティバル）
・最終的に平成25年3月に報告会を開催。
※現在は平成25年度の活動に向けてグループ再編成中。

■全般の感想
最初の段階では遊び感覚が強い子どもたちも少なくなかったために、緊張感に欠ける部分もあった。そのため、フォローする大人側は思った以上に四苦八苦した。なによりも子どもたちに「やらせる」のではなく、子どもたちが「自発的にやっていく」ことを第一に考えて

いたので、計画通りに進まないことも多かった。結果的に月一回の集まり会では時間的に間に合わず、臨時集まり会を招集して、やっとのことでお店やさん開店までにこぎつけたというのが実感。※結果的には予定していた2倍の集まり会が行われた。

実際に最後まで出店をやり抜いたグループは3組（12名：最初の希望者数の１／３程度）。完走できた子どもたちは多くはなかったが、実際にお店の準備作業を何度も繰り返したこと、さらにはイベントで多くの人と接した経験は、やり抜いた子どもたちにとって非常に大きなものだったようで、明らかにお店やさんの実現までの過程の内容が充実していった。家庭内でもその効果は現れていったようで、保護者からもお褒めの声をいただいた。

平成25年3月に行われた報告会では、子どもたちはパワーポイントまで駆使して一年間の経験を大人たちの前で発表した。自分たちで発表内容の構成まで考え、それぞれが体験した感想を話し、大人たちの鋭い質問にもうろたえずに受け答えしている姿は、非常にたのもしく感じさせられた。

＜問題点＞

・現実に子どもたちの日常生活は非常に忙しく、学校に加え、塾や習い事等で目一杯の状態である中で、持続できなくなってしまう子どもたちも出てきてしまった。

・今回の募集は杉並区全域に呼びかけたため、活動場所（高円寺エリア）から離れている子どもたちにとっては通ってくるだけでも大変だった。

・5回の出店は多すぎた。もう少し減らす方向で（年に3回が限度か）。

＜今後の展開＞

平成25年度も引き続き、お店やさん活動は続けていくが、エリアをできるだけ広げない形で募集し、お店やさんの進行についても簡易な子ども向けのマニュアル等を用意して対応していきたい。とくに一年目のグループが失敗した部分などは、先輩からのアドバイスという形で、受け継がれていくことを意識していきたい。

フォローする大人も充分とはいえなかったので、さらに協力者を募り、細かい配慮を意識したサポートをしていきたい。

＜活動の様子＞

活動報告

『杉並のＣＭづくり』

●期　間　　平成 24 年 6 月～平成 25 年 2 月
●会　場　　主にセシオン杉並会議室にて（他にはフィールドワークなど）
●担　当　　ＣＭづくり参加希望者（5 グループ：20 名）
小松崎（ゆるゆる ma～ma）、川上（らくげん）、
渡辺（高円寺『ハート・トゥ・アート』）、
渡邊（杉並区地域課）、諸角（高円寺地域区民センター協議会事務局長）
※佐々木講師、山浦助手、吉本映像作家、保護者ほか

＜目的＞
杉並の魅力を子どもたちの視点で探してもらい、その過程の中で自分たちの住んでいる街に愛着を感じてもらうこと、地域のコミュニケーションを深めてもらうことを目的に実施。基本は子どもたちが写真を撮影し、子どもたちのイメージしている内容に沿って映像作家が編集。ＣＭとはいいながら、最終的には数分にわたる短編映像という形になった。

＜内容＞
■開催日
企画は春から参加者を募集。6月から講習会をスタート。10月の「大人と子どもで創る地域コミュニティフェスティバル」での発表会までに毎月2～3回程度のペースで積み重ねていった（講習会だけではなく、夏休み期間中や休日を使っての個別フィールドワークも含む）。個別対応も含めると、10月の報告会までに18回の講習が行われた。

■内容
・作品のテーマ決め、具体的な構成検討、撮影依頼、取材、写真セレクト、構成案検討
イメージづくり、作品タイトルの確定、映像作家への発注など
・佐々木講師による講義＆サポート（撮影のコツ、写真選びのアドバイスなど）
・発表（大人と子どもで創る地域コミュニティフェスティバル）
※その後、杉並区内の公共施設での放映なども積極的に行った。
※現在は平成25年度の活動に向けて計画立案中。

■全般の感想
個人・グループの参加を募集したが、参加希望者の数は多くはなかった（8組・25名程度）。お店やさんの募集チラシは楽しいイメージを強めにした募集だったが、ＣＭに関しては少し真面目な感じでの募集チラシだったせいかもしれない。お店やさん同様に、途中で脱落した子どもはいたが、それは3組程度。最終的には5組による作品発表が行われた。
まずは写真をたくさん撮ることを目標にして、毎回の講義では実際の写真を見ながら撮影の講義が行った。実践的な講義のせいもあり、子どもたちは撮影を楽しんで積み重ねていっ

た。その結果、いざ映像を作っていく段階で、写真セレクトに苦労した。結果、ＣＭというよりも短編映画に近い形の作品となった。

構成に関しては、子どもたちと何度も話し合って、子どもたちが感じた杉並の魅力を最大限活かすように意識した。撮影していくうちに撮影テーマが移り変わっていくこともあり、決して効率のいい形とはいえなかったが、それは当然のことだっただろう。無駄と思えることは、最終的に成長につながっていく。大人が根気強くサポートするスタイルで完成した5本はそれぞれに個性があふれた内容になっており、当初の「杉並の魅力発見」という目標は達成されたと考えている。

10月イベント時での発表会で来場者の前で初公開されたときには、地元ケーブルテレビでも取材され、子どもたちにとっても大きな思い出になったことだろう。発表会の後にはインターネット「YOU TUBE」にて公開され、さらに企画紹介ナレーションを新たに付け加えて杉並区内の施設などでも放映された。

不可能だと思われた「区長のＣＭ」も実現するなど、杉並区のバックアップは非常に大きなものだった。また、子どもたちの希望する人物の橋渡しをするなど、大人は子どもたちの希望を実現させるために最大限バックアップできたと感じている。

＜問題点＞

・子どもたちの撮影に対する意識の違いに大きな差があったため、お店やさん企画と同様に、同じ形で進めていくには多少の無理があった。参加組数が少なかったせいもあり、目配りはできた方だと思うが、子どもたちの意識を見極める方法が対話だけというのは、非常に手間がかかることだった。

・参加者の希望もあり、個別講習が非常に増えることになった。それは仕方ないが、参加希望者数をいたずらに増やさないことが必要だと感じさせられた。

＜今後の展開＞

平成25年度も引き続き、ＣＭづくり活動は続けていくが、まずはこちらで「杉並の自然」「杉並の人物」「撮影エリアの限定」など、テーマ設定をある程度決めた上で進めていくべきだと感じた。

一般的にパソコンが普及していることもあり、自分で映像の叩き台まで作ってしまう子どももいた。こちらは驚かされるばかりだったが、作業の過程の中で何度かアンケートをとるなど、子どもたちの意識や環境を合理的に把握して対応していくことが必要だろう。

＜活動の様子＞

津田芽衣さんの作品**『トレと芽衣の杉並案内』**

原田亜美さんの作品**『虹色の杉並』**

勝田恒平さんの作品**『杉並タイムトリップ』**

中3勉強会の作品**『杉並ぶらり旅』**

杉並のCMづくり**『田中区長編』**

活動報告

『活動団体調査・意見交換会』

●期　間　　平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
●会　場　　意見交換会はセシオン杉並会議室にて（調査は npo 団体に委託）
●担　当　　小松崎（ゆるゆる ma～ma）、川上（らくげん）、
渡辺（高円寺『ハート・トゥ・アート』）、
原田（センター協議会会長　※10 月以降原田会長から伊藤会長へ）、
渡邊（杉並区地域課）、諸角（高円寺地域区民センター協議会事務局長）
※調査業務委託：NPO 法人竹箒の会

＜目的＞
「大人と子ども」事業を今後に発展させていくために地域活動者の状況を知る目的で行われた。地域ではさまざまな交流会が行われているが、そういった事業よりも一歩深く踏み込んだ団体交流の実現をめざした。

＜内容＞
■開催日
意識調査はNPO法人に委託。通常ならばアンケートによる調査という形なのだろうが、今回は実際に各調査先の団体代表者に時間をとっていただき、口頭による質問も加えた形で、より密度の高い調査を行った。意見交換会はアンケートの結果から、私たちの活動を、より深く理解していただけそうな団体に集まっていただき、地域活動団体の状況、連携の模索、地縁団体との問題等、より現実的なテーマで話し合われた。

■内容
・NPO法人竹箒の会による調査（平成24年度は100団体）
・意見交換会は3回開催
※現在は得られた情報を元にして、新たな活動の輪を広げる計画を立案中。

■全般の感想
「大人と子どもで創る地域コミュニティ」というテーマに関しては、非常に関心が高い結果が出された（全体の8割）。しかし、現実には各団体が自分たちの活動で手一杯の状況もあり、なかなか踏み出せない実態を掴むことができた。
なによりも資金面での問題も大きく、夢だけでは各団体との協働・連携の実現までには結びついていかないという状況が感じられた。
あまり急ぐことなく時間をかけながら、お互いの団体間での信頼関係を構築し、無理のない形で「大人と子どもで創る地域コミュニティ」というテーマで結びついていくことが大切だと思われる。
「はじっこまつり」という定期開催イベントがあるので、そこをひとつの受け皿と考え、

ゆっくりと積み上げていくことが得策だろう。その積み重ねで成功のモデルケースをつくり、多くの活動団体に周知させていきたいと考えている。

＜問題点＞

・お互いが信頼関係を構築するためには時間がかかる。そのためには性急に結果を求めずに時間をかけていくことが必要。最低でも数年の持続性が求められる。

・他団体に呼びかけるにしろ、こちら側から相手にメリットを具体的に提示すること不可欠だと考えられる。

＜今後の展開＞

平成25年度は「はじっこまつり」といったイベントを通じて、協働の輪を少しずつ広げていく予定。こちらも明確な事業目的、相手へのメリット、将来への展望を提示して、意識の共有を図っていきたい。

＜活動の様子＞

活動報告

『各種イベント』

●期　間　　平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
●会　場　　和田公園、セシオン杉並、産業商工会館にて
●担　当　　小松崎（ゆるゆる ma～ma）、川上（らくげん）、
渡辺（高円寺『ハート・トゥ・アート』）、
原田（センター協議会会長　※10 月以降原田会長から伊藤会長へ）、
渡邊（杉並区地域課）、諸角（高円寺地域区民センター協議会事務局長）

＜目的＞
「大人と子ども」事業を地域に周知・浸透させていくこと、ならびに「お店やさん」「杉並のＣＭ」の活動発表の場として行われた。

＜内容＞
■開催日：合計5回のイベントを開催
・平成24年7月……はじっこまつり5
・　　9月……子どもフェア（高円寺地域区民センター協議会と共催）
・　　10月……はじっこまつり6
・　　10月……大人と子どもで創る地域コミュニティフェスティバル
・平成25年1月……はじっこまつり7

■内容
・はじっこまつり
……和田エリアを中心に地域住民を巻き込みながら開催。
各回300～500名程度の集客。
・子どもフェア
……セシオン杉並で毎年開催されている「子どもフェア」を共催で開催。
2500名ほどの集客。例年よりも大幅に集客がアップした。

・大人と子どもで創る地域コミュニティフェスティバル
……他エリアの普及もめざした形。阿佐ヶ谷の公共施設にて開催。
200名たらずの集客。

■全般の感想
「はじっこまつり」は助成をいただく以前から行ってきたイベント。和田という狭いエリアで顔の見える関係性を深めることを目的にしている。7回まで続いていくと地元住民にも

かなり認知され、さらには地域協力者も増え、当初から目指している「世代を越えて一緒に創り上げる安心安全のためのコミュニティ」の成長を実感している。

「子どもフェア」は、高円寺地域区民センター協議会が主催で行ってきた事業。そこでの協働では、「だいすき！杉並」というメッセージ色の強い展示（数百枚のメッセージカードを収集し展示した）を行い、地域の児童館や保育園との関係性が深まるなど、得ることも非常に多かったが、運営する内部では準備を進めていくうちに協働に対する意識の違いなどが浮き彫りになっていった。協働という形で挑戦するためには、まずは協働ありきではなく、スタート前から時間をかけた意識共有が必要だろう。

「大人と子どもで創る地域コミュニティフェスティバル」は他エリアに出張するような形のイベント。運営サイドに地元の協力者が少なかったせいもあり、残念ながら盛況とはいえない結果に終わった。

＜問題点＞

・「はじっこまつり5」は雨天での開催となった。開催直前まで微妙な天気だったことと、地域協力者の意見もさまざまに分かれ、結果的に開催判断が遅れてしまった。最終的には雨天決行という形で開催したが、運営サイドは早めの判断が必要だと痛感させられた。

・「子どもフェア」は、いままでにない盛況な形で終了することができた。しかし運営サイドでは協働に対する意識のズレが出てしまった。高円寺地域区民センター協議会は、区からの補助金によりイベント予算を計上しており、地域のボランティア委員を中心に、地縁団体等の協力のもと運営している。基本的に来場者の負担をできるだけ抑え、イベントを楽しんでいただくという形で開催してきた。こちらは予算がないところからいかに来場者を喜ばせてお金をいただくか？を常に意識して活動してきた。求めることは来場者を喜ばせることで一致していたわけだが、その過程や手段においてのズレは非常に大きかったと感じている。しかし、マイナス面だけを取り上げていても仕方がない。このイベントのおかげで、新しい地域の輪が広がったのも事実。できるだけ大きな輪の広がりにつながる方向を模索していきたい。

・「大人と子どもで創る地域コミュニティフェスティバル」は開催するタイミングが早すぎた。他エリアで開催する場合は、地元の協力者を増やす地固めを入念に行ってから開催することが望ましい。

＜今後の展開＞

「はじっこまつり」は夏、秋、冬の3回を予定。「子どもフェア」はこれから話し合いをスタートさせるが、前向きな協力関係を維持しながら進めていきたい。「大人と子どもで創る地域コミュニティフェスティバル」に関しては他エリアとの関係性を深めてから実施する方向。平成25年度は開催しない方向で考えている。

現状スタッフの状況では、年間5回のイベントは多すぎるので、できるだけ「はじっこまつり」にエネルギーを注ぐ形で、そこから共感者を増やす形をとっていきたい。実際、インターネット等の発信のおかげか、「はじっこまつり」に関しては杉並区外からも興味をもっ

て視察に来ていただく方もいらっしゃったり、ブース参加という形で田無市の団体が出展してきているので、「はじっこまつり」のエッセンスを広げていくことが早道なのかもしれない。

＜活動の様子＞

活動報告

『web広報』

●期　間　　平成24年4月～平成25年3月

●担　当

小松崎（ゆるゆるma～ma）、川上（らくげん）、

渡辺（高円寺『ハート・トゥ・アート』）

＜目的＞

「大人と子ども」事業を杉並地域を中心に、さらにはもっと広いエリアにに周知させていくことを目的に行われた。

■内容

・webでの事業過程の発信（ホームページ、facebook、ツイッターなどを活用）

・印刷媒体によるイベント事業周知

・配布用キャラクターグッズ制作

・和田の街かるたの取材・制作

※上記の活動にかかる記録写真撮影、編集、原稿執筆、デザインなど、かかる作業一式。

■全般の感想

昨年度は広報誌を発行したが、大きな反応を得ることができなかった。そのために内容を見直しつつ、同じ予算の範囲内で「より多くの人たちに認知していただくこと」と「地元の人に喜んでもらうこと」の2本柱を意識して周知活動を行った。

紙媒体も非常に重要ではあるが、実際にはインターネットでの反響、問い合わせが一番大きかった。また、一方的な広報活動ではなく、地域のつながりを強めていくためには、「地域の人たちが喜んでくださることを一緒にやる」ということが大切だと痛感させられた。

「和田の街かるた」はその最たるもので、地域協力者に和田の街の特色を考えてもらい、文章化した大型かるた制作は非常に好評だった。実際に「はじっこまつり7」では、公園の中に大型かるたを隠し、子どもたちに「かるた探し」を行ったが大好評であった。

＜問題点＞

・今後の周知に関しては、予算がほとんどない状態となる。インターネットでの発信を基軸にして、平成24年度にやったことを発展させていくことに務めていく。そのためにも会員の募集など、活動資金に関してのPRも必要になってくるだろう。

できるだけ地域の方々との関係性を深めることをより意識し、共感を得ていくことが不可欠である。そして、その結果を外部（とくに地元商店、企業など）に発信していくことが望ましいと考えている。

＜今後の展開＞

好評だった「和田の街かるた」を広く周辺地域に呼びかけて、枚数を増やしていきたい。地域の住民と地元のことを考えていく機会を増やすことが、結果的に事業の周知につながっていくと確信している。

インターネットでの定期的な発信はいままでどおりの形で。また、コーディネーター的立場として「大人と子ども」の目指している目的に沿った活動をしている団体の活動リサーチ・紹介もしていきたい。

＜活動の様子＞

イベントスタッフ中心に配られた「はじっこまつりTシャツ」。胸にはキャラクターのSUNAちゃんがあしらわれている。枚数は150着作成。

関係者・協力者等にくばられた「はじっこまつり手ぬぐい」（左）

A4サイズで作成された「和田の街かるた」